

GBP / JPY ポンド円 月次レポート

前月振り返りと2026年6月の相場展望

発行日

June 1, 2026

対象期間

5月実績 / 6月展望

通貨ペア

GBP / JPY

発行頻度

Monthly

5月末レート（終値）

214.298

▲ +0.60%（5月月間騰落）

5月高値

214.673

5月安値

210.744

BOE金利

3.75%

BOJ金利

0.75%

今月のハイライト

5月は213.03円から214.29円まで上昇し月間+0.60%。5通貨ペア中では比較的小幅の上昇に留まった

BOEは4月30日MPC会合で8対1の賛成多数で3.75%を据え置き。1名は4.00%への利上げを主張するなど委員会内でタカ派意見が台頭

英国の4月CPI（前年比2.8%、5月20日発表）は前月の3.3%から低下。ただし依然BOE目標の2%を上回っており、インフレ圧力は継続。エネルギー価格規制導入による一時的な低下との見方もある

6月18日のBOE会合と6月16日の日銀会合がわずか2日差で開催。両会合の組み合わせで急激な変動が発生しうる

6月 基本シナリオ レンジ

210 - 216円

BOE・日銀会合（2日差）が方向性を決定（確率50%）

日英政策金利差

3.00pp

高金利差がボンドの下値を支える水準

始値

213.030

5月1日

高値

214.673

月中最高値

安値

210.744

月中最低値

月間騰落

+0.60%

+1.268円

5月の相場動向

5月のポンド円は213.03円でスタートし214.67円まで上昇、月間+0.60%。5通貨ペア中では最も小幅な上昇となった。BOEが4月30日MPC会合で**8対1の賛成多数で3.75%を据え置き**（1名は4.00%への利上げを支持）。英国のインフレ高止まりから利下げ観測は後退しており、ポンドは対円で底堅さを維持した。

英国の4月CPI前年比2.8%（5月20日発表）と前月の3.3%から低下したものの、BOE目標の2%を依然上回る水準。エネルギー価格規制（Ofgem価格上限）の導入による一時的な押し下げ効果との見方もあり、一方で英国経済は製造業PMIの低下など**景気減速の兆しも見られ**、BOEはインフレ抑制と成長支援の板挟みに。月中の210.74円は日銀利上げ期待・リスクオフによる円高局面での安値。

主要イベントの影響

GB BOE 4月30日MPC会合

8対1で3.75%を据え置き（1名が4%利上げを支持）

英4月CPI前年比2.8%（5月20日発表）。前月3.3%から低下も目標2%超は継続

「利下げより利上げ議論が現実的」との見方が台頭

JP 日銀 4月28日会合

0.75%を3会合連続で据え置き（2026年1月・3月・4月）

中東情勢の経済影響を見極める姿勢

6月16日会合での利上げ観測が市場で浮上

5月の総括

5月のポンド円は**日英金利差（3.00pp）**がポンドの下値を支え、月間+0.60%の小幅高。ただし英国はインフレ対応と景気減速の板挟みという難しい状況が続いており、BOE内での意見対立が相場の不安定要因に。6月は**BOE（6/18）と日銀（6/16）が2日差**で開催され、両会合の組み合わせ次第でポンド円の方向性が大きく決まる局面となる。

6月の注目ポイント

6月の最大の焦点は①**6/18 BOE MPC会合**（利上げ示唆の有無・賛否比率の変化）、②**6/16 日銀金融政策決定会合**（利上げシグナルの有無）、③**6月中旬発表の英4月賃金統計**の3点。特にBOEと日銀の会合が2日差で開催されるため、日銀がタカ派（円高）→その翌日BOEもタカ派（ポンド高）という連続イベントで乱高下が生じる可能性がある。英CPI（6月18日前後発表）もBOE判断を左右する重要な材料となる。

シナリオ別レンジ予測

強気	25%	BOEが利上げ示唆・日銀据え置きでポンド高・円安	214 - 219円
基本	50%	BOE・日銀ともに現状維持。レンジ内推移	210 - 216円
弱気	25%	日銀利上げ示唆・英景気後退懸念でポンド円急落	204 - 211円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
BOEが6/18に利上げを実施または示唆	中	ポンド高	英インフレ高止まりで一部委員が4%利上げ支持中。実施なら金利差3.25ppへ拡大、ポンド円は220円方向へ
英4月賃金統計の高水準継続	中	ポンド高	賃金上昇が続けばBOEの追加引き締め観測が強まり、ポンド高要因に。サービス業インフレも連動して上昇
日銀が6/16に利上げシグナル	中	円高	6/16日銀タカ派→6/18BOE結果待ちという2日間のリスクオン/オフが交錯。210円割れリスクあり
英国製造業PMIの悪化継続	中	ポンド安	エネルギー高騰が英製造業を直撃。リセッション懸念でBOEが利上げ不可能になればポンド売り圧力

6月の見通し

基本シナリオは**210～216円のレンジ推移**（確率50%）。日英金利差（3.00pp）がポンドの下値を支え、一方でBOE会合でのタカ派傾斜がポンド高方向の余地も。最大のリスクは**6/16日銀→6/18 BOEの2日連続会合**。日銀タカ派サプライズが出れば210円を割り込む下落リスクがある。英CPI・賃金データの確認後にポジションを検討することが重要。

用語解説

BOE（英国中央銀行）

Bank of Englandの略称。MPC（金融政策委員会）が年8回会合を開き政策金利を決定。現在3.75%を据え置き中。次回は6月18日。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。現在0.75%を維持中。次回は6月16日。段階的な利上げ（正常化）路線を継続しています。

CPI（消費者物価指数）

家計が購入する商品・サービスの価格変動を測定する物価指標。英国4月CPI前年比2.8%（5月20日発表）。前月の3.3%から低下したものの、BOEの目標2%を依然上回っています。

MPC（金融政策委員会）

BOEの政策金利決定機関。9名の委員で構成され、多数決で金利を決定します。賛否比率の変化が今後の政策方向を示すシグナルになります。

政策金利 / 金利差

中央銀行が景気・物価調整のために設定する**基準金利**。日英金利差は現在3.00ppとポンド円の高い水準を支える要因となっています。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）を借りて高金利通貨（ポンド）で運用し**金利差から利益を得る取引**。リスクオフ時に一斉解消（巻き戻し）で円高が急進することがあります。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するものではありません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。